

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 20-003								
PDCA	事務事業名	児童センター管理運営事業	部課等名	健康子ども部 子育て支援課 支援センター担当	担当 内線等			
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第2章 子育てと暮らしを地域で支え合うまち						
		節： 第1節 子育て・子育て支援の推進						
		基本施策： 1. 子育て・子育て支援						
		単位施策： (2) 子どもの健やかな育ちへの支援						
	根拠法令等	半田市児童館条例、半田市児童館管理規則						
	対象・目的	地域住民と交流、連携しながら、児童の健全育成、子育て支援の地域の総合的な拠点として、地域ぐるみで子どもが健やかに育つ環境をつくる。						
	目的を達成するための手段・活動内容	乳幼児や小学生向けの各種イベントや季節行事を開催し、子ども同士の交流を図るのはもちろん、地域のシニア世代やボランティアグループなどと連携しながら、地域で子育て支援活動に取り組むことで、子どもや保護者にとって、安心できる居場所となることを目指す。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		29年度	30年度	元年度	単位	
		①児童センター7館延べ利用者数		144,661	153,757	143,164	人	
		②児童センター7館利用児童数		93,274	98,353	89,684	人	
		事業費		43,234	48,867	39,726	千円	
		人件費		51,730	56,746	57,890	千円	
		総事業費		94,964	105,613	97,616	千円	
		活動単位当たりのコスト		29年度	30年度	元年度	単位	
	①利用者1人あたりの児童館運営費		656	687	682	円		
	成 果	成果指標		29年度	30年度	元年度	単位	
		①市内児童1人あたり児童センター利用回数	実績値	4.41	4.71	4.38	回	
			目標値	4.5	4.5	4.5		
			実績値					
			目標値					
実績値								
目標値								
C 課題の整理	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ない	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ある	⑧受益者負担適正化余地	ない	
	事業の評価・課題	C 児童センターの延べ利用者（児童）数について、令和元年度は30年度と比較すると減少し、目標値を達成することができなかった。主な要因としては夏季の猛暑の影響により、熱中症予防のため空調機のない遊戯室を使用禁止にしたことに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため3月を臨時休館としたことにより利用者数が減少したものである。しかし、保護者同士の交流や、世代間の交流が図られる場になるなど、地域の子育て支援の拠点施設としての役割を果たし、児童の健全育成を推進することができた。						
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	現状維持 児童センター・児童館が地域の子育て支援の拠点施設として更に機能するよう、地域の方やボランティア団体と連携を図り、健全な遊びを通して、児童の生活の安定と人格的発達の場となるよう、環境づくりを推進していく。					
		令和2年度の目標	成果指標		目標値	単位		
			①市内児童1人あたり児童センター利用回数		5.2	回		